

ダンゴムシには、どんなひみつがあるの？
（「生きるじつ」と結び付いている脱皮）

題名は、右のように「問」をそのままだけに書いてもいいし、左のように、読み手をひきつけようように書いてもいいです。

四年三組 中山 典子

初めに

ダンゴムシの脱皮には、どんなひみつがあるのかを調べることにした。ダンゴムシが地面を歩いている姿は、よく見かける。そして、手のひらに乗せて、丸めて遊んだこともある。このように、ダンゴムシは、身近にいる虫だけれど、知らないことが多い。そこで、まず、図書館にあった「ダンゴムシ」という本を読んできた。その中で、いちばん心に残ったのが、「ダンゴムシの脱皮」についてだった。ここには、みんなが「えっ」と驚くようなことが書かれていた。しかし、まだ、「ダンゴムシの脱皮」について知りたいと思ったので、インターネット上にあった「ダンゴムシジャパン」という資料を使って、さらに調べることにした。

分かったこと

1 ダンゴムシの赤ちゃんは、成長するために脱皮する。もちろん、大きくなっても脱皮する。脱皮するときは、まず、「後ろ半分（下半身）のからを脱ぐ。そして、脱ぎ捨てたからを食べる。次に、前半分（上半身）のからを脱ぐ。そして、また、脱ぎ捨てたからを食べる。」と書かれていた。

2 次に、脱ぎ捨てたからは、その後、どうなるのかについて書く。「じつは、「脱ぎ捨てたからを食べる。」という驚くべき内容が書かれていた。そして、「これは、新しいからをつくるための栄養になっている。」とも書かれていた。

3 最後に、脱皮の失敗について書く。ダンゴムシの脱皮の失敗は、取り返しがつかない。なぜなら、「命にかかわること」だからだ。これは、上半身の脱皮でも、下半身の脱皮でも失敗すると、命にかかわる。「上半身の脱皮に失敗すると、正常に動くことができなかつたり、バランスを崩して転覆したりするので、えさをなかなか食べられなくなる。また、下半身の脱皮に失敗すると、排泄機能が失われ、長生きは難しくなる。」と書かれていた。

終わりに

このように、ダンゴムシの脱皮のひみつについて調べてきた。自分のいらなくなつたからまで食べるなんて、成長するために、そして、生きるために必死なんだと感じた。また、脱皮に失敗すると、取りかえしのつかないことが起る。じつとして考えると、ダンゴムシは、日々のくらしそのものが、「生きるじつ」と結び付いている。わたしたち人間は、少々の失敗なら取り返しがつくこともある。例えば、ノートに文字を書き間違えてしまったら、消しゴムで消して書き直せばいい。また、友達のことをこわしてしまった時、わざとではないのなら、誠意をもって素直に謝り、自分が直せそうなら自分で直すというふうに行動で示すといい。しかし、ダンゴムシは、そういうわけにはいかない。ダンゴムシは、「生きること」に対して、まっすべに向き合っている生き物なんだなと思った。

〈使った本〉 皆越 ようせい 「科学のアルバム かがやくいのち ダンゴムシ」

〈使った資料〉 ダンゴムシジャパン 二〇一九年

あかね書房、二〇一〇年